

【事務局】

一般社団法人 熊本県社会福祉士会
 熊本市東区健軍本町1-22 東部ハイツ105
 TEL 096-285-7761
 FAX 096-285-7762
 E-mail kumacsw@lime.plala.or.jp
 URL http://kumacsw.com/



一般社団法人 熊本県社会福祉士会ニュース

CSW くまもと

Certified Social Worker

第76号

発行責任者 深谷 誠了
 編集責任者 田上 緒
 発行月 2023年5月



時代の流れに合わせた運営を 2022年度 臨時社員総会 開催

会場参加とオンライン参加の併用にて2022年度臨時社員総会が3月19日（日）に開催されました。

現在、熊本県社会福祉士会の正会員は871名。今回の臨時社員総会は、司会進行を西田剛副会長が務められ、当日の会場出席者37名と委任状提出者519名の出席により、定款第19条（決議）※に基づき、正会員の過半数を超えていることから、総会が成立していることの報告がありました。

※定款第19条（決議）社員総会の決議は総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した正会員の議決権の過半数をもって行う。



挨拶する深谷会長



議案を説明する塘林副会長

深谷誠了会長の挨拶の後、議事に入り、議長は深谷会長が務められました。第1号議案については、傘正治事務局長が所用により欠席のため、代わりに塘林敬規副会長が説明されました。

第1号議案、第2号議案いずれも承認されております。

なお、会場の後方には、トルコ・シリア地震被災地支援活動への義援金の募金箱が設置されていました。

第1号議案

(臨時社員総会の議事の一部)

2023年度事業計画（案）について

基本方針、重点施策、公益目的事業計画、事務局運営方針の説明がありました。

続いて、委員会活動計画、ブロック活動計画について、会場に参加している委員長、ブロック長より説明がありました。

第2号議案

2023年度収支予算（案）について

収支予算（案）、公益目的事業会計予算書（案）、一般会計予算書（案）の説明が、塘林副会長よりありました。これまでコロナ禍の影響を受けて、感染拡大予防のための機材の購入などがありましたが、今後は各活動が活発に行われることに伴い経費が増えることが予想されています。また、インボイス制度への対応や事務局員の人件費など、時代の流れに合わせた対応をしていく必要があることなどの説明がありました。

<一般社団法人 熊本県社会福祉士会 社員総会>

一般社団法人の重要事項等を決定する意思決定機関。重要な事項、例えば役員を選任や解任、定款変更などを行う場合に開催され、社員による決議が行われる。全ての社員で構成され、社員は原則一人一個の議決権を持つ。

自ら動き出す会員を応援する社会福祉士会に 社会福祉学会・特別フォーラム

第1部 基調講演

演題 『会員の会員による会員のための「〇〇〇〇」※』

※演題は原文どおりです

～課題に気づき、自ら動き出す人を応援する会になるためのアクション～

一般社団法人群馬県社会福祉士会の小川貴之副会長と星野久子常務理事を講師にオンラインにて基調講演が開催されました。前半は、小川副会長、後半は星野常務理事が話しをされました。

小川副会長からは、「『下がり続ける組織率』に対して理事有志で、会のビジョンやミッションについて検討してきたが、なにか変えないといけないと思い始めていた頃に、変わるきっかけとなったのが“コロナ禍”だった。今まで当たり前に出ていたこと、していたことが出来なくなったが、群馬県社会福祉士会では、コロナを理由に何もできない、何もしないという考え方をやめ、新しい方法を模索した。集まらないなら、“集まらず”にやればよいということからオンライン化（ICT化）が進み、オンライン会議などが確立したことで、会の中長期計画が急速に動きはじめた。」と話しをされました。

後半は、星野常務理事が中長期計画や新しい委員会体制について、具体例を示しながら、わかりやすく解説していただきました。「ファンドレイジング（非営利組織の資金調達）」の手法を「組織率向上」に生かす実践、「ファシリテーション」の考え方を「会員の参加促進」に生かす実践についてユーモアたっぷりに話していただきました。

【群馬県社会福祉士会中長期計画の概要】

- ①「仲間1000人計画」有資格者の加入率25%を目指そう！
- ②「学び100%実行」研修やイベントに全会員が年1回以上参加しよう！
- ③「社会を動かす組織力」会員の2人に1人以上が委員会や地区協議会の活動に参加して、社会の課題に率先して向き合える組織にしよう！

【シン・委員会体制】

- ・委員会活動に参加したことのない人でも所属しやすい「分野別委員会」の設置
- ・自発的に集まって活動できる「公認団体」という枠組みの設定

第2部 パネルディスカッション

テーマ：『変える・変わる ～イノベーターなチームの作り方』

一般社団法人 群馬県社会福祉士会 小川貴之副会長、星野久子常務理事

一般社団法人 熊本県社会福祉士会 岡村常任理事、垣原ブロック長、野尻会員、田上広報委員長

第2部では、コーディネーターを深谷会長が務められ、第1部の基調講演を聞いたうえで、熊本県社会福祉士会の「危機」と思うことについてそれぞれの立場で意見を求められました。

続いて「嬉々」、強みやメリット等について意見を述べた後に、群馬県社会福祉士会の小川副会長、星野常務理事からご助言などをいただきました。

「会の活動の活性化」について群馬、熊本の2つの県士会が意見交換することができた貴重な時間となりました。



パネルディスカッションの様子

災害支援のジレンマや苦悩を語る 「かたりば2022」開催

災害時支援委員会 委員長 遠山 健吾

本会と愛媛県社会福祉士会の主催で、「かたりば2022」を2月11日（土）にオンラインで開催しました。愛媛、広島、福島、熊本の4県の社会福祉士38名が参加しました。「かたりば」は、熊本地震後、自身も被災者でありながら被災者支援に奮闘する社会福祉士や災害支援に出向いた社会福祉士がジレンマや苦悩を会員同士で語る場（はきだす場）として2016年から始めましたが、熊本においては令和2年7月豪雨災害でも被災したため、今ではこの2つの災害で被災した県として、継続的に本会会員同士で語る場を設けてきました。

これまでは、県内のみで開催してきましたが、社会福祉士同士のつながりを通じて、今回は熊本含め被災経験のある4県の社会福祉士が参加しました。

<当日のスケジュール>

- 13:00 開会挨拶 深谷誠了会長（熊本）
- 13:05 4県社会福祉士会のかたりばより報告
 - ①島野光正様（福島）
 - ②河野喬様（広島）
 - ③岡田多恵子様（愛媛）
 - ④西田剛 副会長（熊本）
- 14:30 グループトーク・発表
「災害支援について振り返ってみよう」
- 15:30 閉会挨拶 米田順哉会長（愛媛）

前半は、4県の社会福祉士会より災害支援の取り組みを「かたりば」よりそれぞれ語って頂き、改めて各県の被災状況や災害支援における苦労や苦悩を知ることができ、共感する部分も多々ありました。なかなか聴くことができない大変貴重なお話でした。

後半は6班に分かれてグループトークを行い、所属組織における被災時の動きや社会福祉士会の災害支援等について、上手くいったことやいかなかったこと等を本音で、ぶっちゃけて、ざっくばらんに思いを語る事ができ、時間が足りないグループも多くみられました。



「かたりば」は、災害支援についてジレンマや苦悩を語る場であると同時に災害支援を振り返り、次の災害支援につなげていく、備えていく場でもあります。また、災害支援について触れることができる良い機会だと考えられます。特に今回は他県の実業福祉士と災害について語り合うことができ有意義な時間でした。より強いつながりができたと思います。

語り継ぐことも大事にしながら今後も継続的に開催していきますので、次回開催時は、もっと多くの社会福祉士の参加をお待ちしております。

<災害時支援委員会> 理事：西田剛 副会長 委員長：遠山 健吾

災害時発生時に備えた体制整備、発災時の支援活動の体制の強化に向けて「災害支援活動者養成研修」等を開催。活動会員数は13人。

新たに11名のばあとなあ会員が誕生

ばあとなあ名簿登録研修を開催

成年後見委員会 委員長 福原 建三

2月18日（土）に名簿登録研修を開催いたしました。今年度は例年より多く11名の方が受講され、無事ばあとなあ会員への登録準備が整い、今後成年後見人として活動していただくこととなりました。

この名簿登録研修を受講するには、成年後見人材育成研修を受講、修了していることが条件となります。この成年後見人材育成研修は本会では研修を実施しておりませんので、他の県士会が開催している研修を受講していただく必要があります。また受講するには、基礎研修ⅠⅡⅢの修了が要件となっていますので、後見人等として活動するには最低でも4年ほど時間を要することとなります。今回受講された方も多くの時間をかけてここまで来られました。今後後見人等として活動するなかでもこれまでの学ばれた研修が役に立つものと思います。

名簿登録研修は成年後見人としての基本的な姿勢からリスクマネジメント等についての講義と事例演習を通して実務について学ぶ機会となっております。今回は久しぶりに集合形式で開催いたしましたが、事前準備等含めて感覚を取り戻しながらということもあり、ご迷惑をお掛けした部分もありましたが、皆さんと顔を合わせて研修できることの喜びも実感しつつ実施いたしました。受講された皆さんも基礎研修や成年後見人材育成研修ではオンライン上で顔を合わせておられましたが、実際に顔を合わせる機会となって受講生間で連絡先の交換などをされている光景を目にして、主催者としては開催方法の判断に迷いましたが、実施後には集合形式でよかったと改めて感じました。

今後、皆さんは後見人等として活動されていかれます。私たち運営委員も気持ちを新たに今後もしっかりとサポートしていきたいと思います。



ばあとなあ名簿登録研修の一場面

<成年後見委員会> 理事：松本健一 委員長：福原建三 委員数約140名
成年後見人として資質向上・後見制度の啓発および利用促進を目的に活動を実施。また、成年後見人として実務を担う社会福祉士成年後見等受任候補者の養成を目的とする「名簿登録研修」を実施している。

スクールソーシャルワーカーの実践から学ぶ 子ども家庭支援委員会 3月研修

子ども家庭支援委員会 副委員長 西森 ゆき

子ども家庭支援委員会3月研修会が3月11日（土）に開催されました。毎年この時期にSSWの方を対象とした実践報告会が行われていたのですが、今年度より同委員会が主催になったことを機に、対象者を「子ども家庭福祉に関心のある方」に広げました。その結果、年度末の多忙な時期にも関わらず、27名という多くの方にご参加いただきました。

内容は「SSWの実践報告から”つなぐ”を考える」をテーマに、Zoomによるシンポジウム形式で、ファシリテーターに当会常任理事でもある、熊本学園大学の岡村ゆかりさん、実践報告者として義務教育SSWの神谷公省さん、高校SSWの陣内恭子さん、大学SSWの松永美弥さんにお話いただきました。

実践者の3人からは、それぞれの事例を通じて、学校やその他関係機関と連携を図るうえで意識したこと、ジレンマを感じたこと、SSWとしてアドボケイトやソーシャルアクションなどの機能・役割及びその必要性についてなど多岐に渡る意見が出されました。子どもの発達年齢によって生じる課題が異なる一方、子ども自身や家庭が抱える長期的課題もあり、関係機関との横のつながりだけではなく、SSW間の継続支援といった縦のつながりも含めた幅広い支援の在り方をSSWには求められていると感じました。

お名前は画面左上から

陣内恭子さん
(高校SSW)

松永美弥さん
(大学SSW)



岡村ゆかり常任理事
(ファシリテーター)

神谷公省さん
(義務教育SSW)

実践報告後の意見交換の様子

実践報告後の意見交換でもフロアからは、「学校教諭等の他職種と連携し、互いの理解を深めていくためには、ワーカーも自身の意見について、根拠をもって理論的に説明できるようなスキルを身に付ける必要があるのではないか。」また、「学校では個別教育支援計画を作成されているのでSSWも活用してはどうか。」といった活発な意見が出ていました。

岡村さんから、「ワーカー自身ができること、できないことを知っていることで、連携先が見え、課題解決につながる。」「今後更なるつながりをスムーズにしていくために、社会福祉士会も職能団体として人材育成にも力を注いでいく必要があるのではないか。」とのコメントをいただきました。

研修会終了後のアンケートも大変好評で、「虐待、非行などの問題を目の当たりにするなか、今子ども達に何が必要で、継続的な支援を考える場が必要だなと思いました。」などのご意見もありました。

本年4月にこども家庭庁も発足し、来年4月にはこども家庭ソーシャルワーカー資格の新設が予定されています。このような過渡期に、SSWを中心に、子ども家庭に関心のある方々との意見交換の場が持てたことは、大変意義深いものがあるのではないかと思います。同委員会高橋委員長も、次年度も今回同様、熱く語り合う場を設けたいと話がされていました。気が早いですが、今から次年度の実践報告も楽しみです。

子ども家庭支援委員会では、現在メンバーを募集しています。子ども家庭福祉に関心のある会員さんであればウェルカムです。ご興味のある方はお気軽に事務局までお声かけください。皆でつながり、子どものことを一緒に考えていきましょう。

<子ども家庭支援委員会> 理事：坂本真奈美 委員長：高橋徳昭 委員数17名
子ども及び家庭に関することの研修及び社会活動を行っている。

社会福祉士の実践の理論を学ぼう

～基礎研修を受講しての感想～

基礎研修Ⅱ 野尻 大輔

基礎研修Ⅱでは、ミクロ～メゾ～マクロ領域のソーシャルワーク、スーパービジョン、実践研究の意義や方法について学びを深めるとともに、県内の社会福祉士とつながりをもつことができました。

研修のグループワークでは、様々な分野の社会福祉士と意見交換をすることで、毎回新たな視点や学びを得ることができ、日々の業務のなかで、「自分の業務＝社会福祉士」になってしまっていた自分自身を振り返り、視野を広げるよい機会になりました。

また、今年度、実習生を指導した際には、レポートで作成した「相談援助の展開過程」を用いて講義をすることもできました。学校で最新の福祉を学んで実習に参加する学生に対して、指導者側が基礎に立ち戻り、学びを深めることのできる場があったことは、非常に心強かったと感じています。

基礎研修Ⅱと仕事の両立は決して楽なものではありませんでしたが、集合研修の度に新たな出会いや発見があり、研修翌日には決まって業務に前向きになれていた自分のように思います。基礎研修Ⅱを通じて出会えた講師の皆様、受講生の皆様に感謝申し上げますとともに、次年度の基礎研修Ⅲにもぜひ挑戦したいと思います。



基礎研修Ⅲ 西村 菜穂子

私は地域包括支援センターの社会福祉士として勤務しています。総合相談・権利擁護業務を所属の職場にてチームでケースの検討をしたり、地域と連携をしたりしながら対応しています。基礎研修を受講しようと思った目的は、「社会福祉士の資格は取ったけれど、業務に対して自分の力が足りているのか不安だな。」と思っていたところ、基礎研修があり勉強しようと思し込みました。コロナ禍になる前は対面での講義もあり、さまざまな人との出会いも経験することができました。

基礎研修Ⅲは、Zoomを使用したオンライン講義とe-ラーニングでの受講となりましたが、講義内容は日々の仕事に生かせることもありとても勉強になりました。グループワークでは、一緒に受講できた仲間とのつながりができたと思います。講師の先生をはじめ、運営をしてくださりました研修委員会の皆様、熊本県社会福祉士会の事務局の方、Web研修プロジェクトチームの方々、ありがとうございました。

基礎研修を通して、日々の業務の振り返りはもちろん、新しい知識を教えてもらいグループワークで色々な考えや視点に触れることができ、大変実りのある勉強ができたと思います。今後の業務に生かしていきたいと思います。



<基礎研修Ⅰ～Ⅲ>

公益社団法人日本社会福祉士会の生涯研修制度で、基礎課程、専門課程の2つの課程からなっている。基礎課程は、都道府県社会福祉士会に新しく入会した社会福祉士が必ず受講する課程としており、専門課程は、基礎研修を修了した会員がさらに研鑽を積むための課程として、自ら立てた研修計画に従い受講するものとして位置づけている。

会員サービス委員会企画 初代会長 岩下則人さんを囲んで

温故知新 ～社会福祉士の「これから」を語りたい～

広報委員会 委員長 田上 緒



初代会長 岩下則人さん

3月4日（土）に会員サービス委員会の企画で初代会長の岩下則人さんを講師にお招きし研修会が開催されました。国家試験合格までの勉強会の様子や熊本県社会福祉士会の設立時のメンバーやその当時を思い出しながら語られました。

岩下さんの軽妙な語り口や会話から参加している聞き手側が色々と考えを巡らせながら、つつい前のめりになり、話に引き込まれるような研修となりました。



意見交換の様子



当日参加者全員での集合写真

その後、岩下さんを囲んで、紫藤千子さんがコーディネートを務め、参加者からの意見を踏まえ、『温故知新』の言葉どおり、初めて知ることや会員同士のつながりの大切さ等を実感できる機会となりました。

<会員サービス委員会> 理事：松川あゆみ 委員長：久保田享治 委員数9名
会員のネットワークの構築と会員に対するサービスの質の向上及びブロック活動の活性化を目指している。

八代ブロック研修 司法書士・社会福祉士 合同研修会

司法書士との相互理解を深める

八代ブロック長 垣原 勝美

3月10日（金）に「権利擁護における司法書士・社会福祉士会合同研修会」を行いました。本研修は八代・水俣圏域の司法書士の方々と専門性の相互理解や顔の見える関係を築くことで、成年後見等に関する相談や支援時にスムーズな連携が図れるようにという目的で2014年度から行っており、コロナ禍で中断していましたが、4年ぶりに開催しました。



グループワークの様子

今回は、八代市役所で勤務する社会福祉士の方より「八代市成年後見支援センターの概要と現状」、司法書士の方より「デジタル遺産」について講義を行っていただきました。

さらに、参加者の自己紹介を兼ねたグループワークでは他職種、他業種の方々と意見交換ができ有意義な時間を過ごすことができました。

八代ブロック以外からも多くの参加者があり「色々な話が聞けて良かった」、「つながりができてよかった」との声も多く聞かれました。

対面での研修や情報交換会の開催には不安もありましたが、オンライン研修ではなかなか得難い、顔の見える関係や困りごとを気軽に相談できる関係を築くいい機会になりました。今後もブロックの活動が社会福祉士の皆さんの学びの場、交流の場、情報発信の場となれたらと思っています。

<八代ブロック> ブロック長：垣原勝美 ブロック会員数45名
八代地域の会員のニーズに即した研修の実施と会員相互の交流を図ることを目的に活動。

◆トルコ・シリア地震被災地支援活動義援金 お礼とご報告

トルコ・シリア地震 被災地支援活動義援金に、多くの会費の皆さまによりご協力をいただきまして、感謝申し上げます。

事務局内に設置した募金箱、2月から3月にかけて開催した研修会における募金、お振り込みによる募金と当会からの義援金を合計し、下記の金額を日本 ソーシャルワーカー連盟の指定の口座に振り込みましたのでご報告致します。

令和5年3月31日

会員の皆さまからの募金総額	49,731円
熊本県社会福祉士会からの拠出金	30,000円
合計	79,731円

つぶやき

年度替わりで皆さん忙しい時期を迎えていることかと思えます。

新型コロナウイルスの感染対策において、マスク着用が3月13日以降、個人の主体的な選択を尊重し、着用は個人の判断に委ねることになりました。また、政府は5月8日に今の「2類相当」から季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行する方針を示しております。少しずつではありますが、コロナ禍前の状態に戻っていくのではないかと考えております。

「3密」なる言葉が登場し、同じ空間に集まって話し合う機会が減少し、オンライン会議や研修が日常化しました。最近では陽性者数も一時期よりは減少し、以前のように集まる機会も増えてきております。その結果、久しぶりに同じ空間で顔なじみのメンバーが集まり、談笑することがこんなにも有意義で価値のあるものなのかを気づかせていただいています。

コロナ禍を経験したからこそ、従来の「当たり前」を疑うことで見えてきたことや新しい知識もあるかと思えます。特に、リモートワークやDX（デジタルトランスフォーメーション）等の今まで聞いたこともない言葉が登場し、いまだになじめず、心理的にも若干の抵抗があるのが現状です。なんとなく面倒くさい、漠然とした不安はありますが、「変わる」ことにネガティブにならず、少しずつ取り入れ、「変化」することを恐れず、新しい時代に順応していきたいと考えています。

広報 田上